



青森県 五所川原市役所
 発行所 電話28-128-329
 市長室・広報係
 編集人 市市長室・広報係
 印刷所 誠実堂 泉印刷社

市の人口動態
 (4月末日現在)
 (住民登録による)

人口	38,685	世帯	6,826
出生	93	転入	224
死亡	31	転出	175

梅田・中泉の悲願成らず!

投票遂いに中止

兩部落民投票有効とけいふ

鶴田町梅田・中泉両部落の分村住民投票は、九日午前七時から梅沢中学校で行われたが、投票終了の午後六時三分前に至り、鶴田町選管より「投票中止」の発表と共に、投票洩れの分村賛成派四十余票と、鶴田町側が待り集めたと思われる一時住民四百余票を残し、待機する三百五十名の警察官によつてこれら未投票者の退去が命ぜられ、完全なる住民の意志の発表が行われた「投票の効力」が未決定のまま、投票箱は

投票が中止されるまで

投票が有効か無効かに疑義

梅田中泉の住民投票が何故中止されるに至つたか。この日五月には珍らしい朝晴れのよい日で、普通であるれば絶好の投票日和といふ事が出来た。しかし投票場となる梅沢中学校の周囲を包む空気が非常に陰鬱なもので、投票所前面の校舎には未明五時既に鶴田町から送り込まれたと見られる労働者風の四百名程が、何れも顔冠りや鉢巻姿で待機し、この周囲には武装した警官隊が配置され、しかも時が経つ程に青森、弘前、木造方面から続々武装警官隊が送りこまれて警備の壁を厚くするといった状態で、文字通り蟻の這い出る隙もない警備隊り、恐らくこの種住民投票は勿論投票と名の投票にのぞむ態度について

本野力三氏来五
 元農林大臣平野力三氏は農村事情視察のため去る三日朝来五、同夜は市内角は



旅館に一泊して六日帰京したが、市内名士との懇談や筆塚で寸暇もない多忙ぶりでした。
 (写真挿入する平野氏)

遂に乱闘の場

され、正常な投票権を持つ両部落民から投票が行われた。両部落民は一時住民との区別を明確にするため、胸に「梅」「中」の標識をつけ、婦人老病者を先きに午後五時までに両部落の正分村有権者一千四十四名の正分村賛成の九百二十二票が投票し、なお残余の分村賛成四十余票と、一時住民四百余票(これが投ぜられれば分村不成立となる)を暫らく休止の後投票再開によりこれを誘導せんとしたため、正義の血に燃える青年行動隊が殺倒れこれを阻止せんとして乱闘となり、更に校庭の部落民も参加して收拾すべからざる修繕場を現出さす。かくする中鶴田町側

長富の分村 受入を可決

五所川原市臨時議会は十七日午前十一時開会、昭和三十年十月一日から三十二年三月末日までの財政説明があつた後、金木町長富部落の分村受入を満場一致で可決開会、続いて全員協議会を開き、支所の統廃合問題について協議散会しました。

浪曲映画で慰安

市税完納表彰式

このたび昭和三十一年度市税完納者約二千九百名の表彰式及び浪曲映画による感謝慰安大会を左記のとおり

共に(の)投票を無効とする旨の宣言をなしたと伝えられるが、両部落民は正當有権者の九割五分までが投票を完了しているのであるとしてとう票箱返処分の申請を行う外、選管に対し、鶴田町に対しこれを有効と認めるよう指示されたといふ陳情を行う事になった。なおこの日近く住民投票が行われる金木町長富部落の人々も皆切バツで状況見学をした。

外崎市長は全国新市々長会議出席かた、中央官庁との折衝要務を帯び九日夜上京しました二十日頃帰庁の予定です。

金木町と懇談 住民投票問題で 二十二日行われる長富の分村投票の前に、無益な争いはやめようとして五所川原市から金木町に対し、両市町首脳懇談会開催を申し入れたところ、金木町でもこれを受け、来る十九日午後一時から市議会議事堂で市側外崎市長、仙庭議長、金木町花田町長、中村議長、四者が出席、お互に腹を割つての話を進めて住民投票の円滑化を推進する事になりました。これは今後行われる住民投票に一ツの在り方を示すケースとして注目されるところでしよう

五月二十日 午後七時 栄小学校(栄地区)
 二十一日 長橋中学校(長橋地区)
 二十二日 松島中学校(松島地区)
 二十三日 飯詰中学校(飯詰地区)
 二十四日 中川中学校(中川地区)
 二十五日 三好中学校(三好地区)
 二十六日 豊沙門小学校(豊沙門地区)
 二十七日 五所川原公民館 (五所川原地区)

私達の周囲を清潔に

蚊とはえは幼虫のうちに

私達の周囲から、蚊や蠅「あぶ」などをなくすることができたら私達の生活は勿論、馬・山羊・豚・鶏等も安眠ができ、それぞれの飼育者に必ず利益をもたらすことではどうしたらこのような住みよい街をつくることのできるか？

それは家庭の周囲を清潔にするこゝによつてこの運動七割以上効果があがり加えて薬剤を散布し、蚊や蠅のあらたな発生をふせぐこと

- (一) 池や水槽には魚を飼うこと
- (二) 側溝、池、垣根等の附近に生える雑草は「蚊」のすみかであるから刈りとること
- (三) 蠅の駆除
 - (イ) 台所から捨てごみは蓋のある箱へ捨てること
 - (ロ) 便所の汲取には完全な「ふた」をし落し口に「ふた」をして便池内を暗くし、窓には金網を張ること
 - (ハ) 牛・馬・犬猫などの糞は早急に取片づけること
 - (ニ) 鶏小屋は毎日掃除し放し飼いをしないこと
 - (ホ) 肥料だめには必ず完全な「ふた」をし、堆肥は蛹が入りしないし、堆肥な小屋をつくつて積むこと
 - (ヘ) 畜舎の窓には金網を使用し、出入口は完全な

一、蚊の駆除

(イ) 流れない水たまりはなくするが、又は薬剤を散布する

(ロ) 用水桶等には蓋をし毎週一回水をとりかえること

住民登録について御願ひ

五月十五日から五月三十一日までの間に住民登録調査員が背様の御家庭を訪ね、家族の異動状況を調査致しますから、何分の御協力を御願ひ致します。なお調査後に於ても次ぎの事がありません。五月十四日以内に市役所の戸籍住民登録係まで届出下さい。正当な理由がなく届出ない場合は過料又は罰金に処せられます。

(調査員は調査員の証を持っていますから御注意下さい)

- 一、他町村から五所川原市へ住所を移した時
- 一、五所川原市内で住所を移した時
- 一、世帯主が変わった時
- 一、その他世帯に変動のあつた時

大掃除査察

市では五月十六日から四日五所川原地区の大掃除日間は蚊と蠅の絶滅運動を行つていきますから、次ぎの事がらを履行して住みよい町を造ることに協力しましょう

- 一、下水をよく流れるようにして下さい
- 二、便所は蛹の出入り出さないように工夫して下さい
- 三、家の周りの雑草などは刈取つて下さい

小鳥の巣箱で野鳥の産卵始る

市内松野木小学校(長福)では市教育委員会の奨めで児童に小鳥の巣箱を作らせていました。この種百二十個を完成直ちに附近の樹木に取りつけたところ、早くも野鳥の産卵がはじまつています。この事で、学校の附近は眼下で有名な野鳥の棲息地で、ウグイス、ホトトギス、カッコウなど十数種も棲んでおり、今を盛りと美声コンクールに学童達を楽しませていますが学校に紹介する目的で、スライドの製作も行なつていきます

具体的数字等は六月の市公報その他で皆様へおしらせ致します

「蚊や蠅は、幼虫のうちに退治しましょう」

先号広報の市評命中次ぎの二名は事務処理上の手違いにつき取り消します。

保健婦 山本みね
全 佐藤揚子

お買物は市内で

本市が建市の目標を達成するには、先づ財政基礎の確立が必要です、それには市民全体を裕福にしなければなりません。市内のお金は市内に落ちすように、お買物などは出来るだけ市内でするように致しましょう。

種痘の御知らせ

次ぎのとおり種痘を行いますから該当者は御注意下さい。

一、対象となる者
昭和三十年十二月末日までに生れた未種痘者

二、日時
種痘 五月八日九日
検診 五月十五日

何れも午後一時より午後四時まで

三、場所
市立病院小児科

四、料金
一人 十円

新農山漁村のブロック會議

新農山漁村建設総合対策北郡ブロック協議会が、十六日午前十一時から市議会議事堂で開かれ、農林省が示す対策要綱についていろいろ協議し、質疑応答が重ねられました。出席者は市町村長、市町村農会議長、役所場係員、青年団、婦人団の代表で、県からは木村農政課長補佐(関係課係員)が出席して説明にあたりました。この新農山漁村建設の総合対策というものは、農山漁民の自主的総意に基づき適地適産を培調とした農山漁村の振興についての計画の樹立と事業の実施を総合的に推進し、農山漁業経営の安定と農山漁民の生活向上をはかるのが目的、これを五年計画で進めようというのです。

保護家庭のよい子に贈物

市内国際映画劇場主三和君子さんは、市内の生活保護家庭のよい子達に児童福祉月間の贈物として、無料観覧券を発行する事になり十日午前市の福祉事務所を訪れこの旨を伝えました。福祉事務所では大いに感激し、早速要保護家庭に伝えました。



(六月中)

水稲

- 1、灌水 (かけ流しをしない)
- 2、補植
 - イ、田植後欠株や植傷みの著しい株を補植すること
 - ロ、補植苗は異品種を混植しないように注意すること
- 3、苗代 跡作
 - イ、保温折衷苗代は勿論、通し苗代を解消するように耐寒性の強稈品種を跡作する
- 4、除草
 - イ、田植後二週間目頃から始め、一・二番除草は手取りと機械を併用し、根廻りを十分深く
 - ロ、除草後は一時深水にして株の泥を落すこと

りんどご

- 1、(上旬) 薬剤の散布
 - イ、落花十日後に行う
 - ロ、薬剤は有機りん剤が百二十倍硫酸鉄合剤(石灰硫酸合剤八割、硫酸鉄十割、水一斗)
- 2、病虫害の発生
 - イ、突クサレ、株ツサレが出る
 - ロ、ウドンコ病発生最盛期
 - ハ、コクテン病侵入初期(上旬から七月上旬まで)
 - ニ、リンゴハダニ産卵が多くなる
 - ホ、コナカイガラムシ孵化最盛期
 - ヘ、スモモハダニ成虫(第一回出始め)

(中旬)

- イ、薬剤散布は袋換前に行い、無袋は落花二十五日後三十日後に行う
 - ロ、薬剤は一石二斗式ポルドウ液(生石灰八十斤、硫酸銅十斤、硫酸亜鉛十斤、水一斗)、無袋落花三十日後は硫酸鉛十五斤加用一石二斗式ポルドウ液(生石灰四十斤、硫酸銅十斤、硫酸亜鉛十斤、水一斗)
- (下旬)
- イ、使用薬剤は有機りん剤加用二十斤式亜鉛石灰液(生石灰四十斤、硫酸亜鉛二十斤、水一斗)とする
 - ロ、病虫害はナシノヒメミンタイ成虫(第二回)が出始め、この時期から果実に被害が出る
 - ◇ モモシロイガの産卵が多くなる
 - ◇ スモモハマキ孵化最盛期
 - ◇ ポルドウ液、硫酸鉛の薬害が出やすい